

「矢板の隠れた良さを紹介～先にあるのは明るい未来～」 を進めるにあたっての市民記者の抱負

増田 武司

この「やいた応援かわら版」は、矢板の良さを皆様にご紹介することで皆さんに一層矢板を意識し、興味を持っていただくことによって、矢板の活性化に結び付けられたら良いと思っています。

内容は、個人・グループ、商店・事業所、場所、行事など、対象範囲は制限しません。また矢板の故事来歴や新しい矢板の特徴ある名産等有形無形を問いません。今までは知っている一部の人だけの話題をかわら版で紹介することで、オール矢板の共通話題に持ってゆきたいと思っています。

また、中高生の若い人たちにも参加してもらえる内容も考えています。そしてこのかわら版を、全矢板市民参加型のかわら版にできたらと思っています。

仲島 寿一

「市民力かわら版」を卒業して、二代目「やいた応援かわら版」が誕生しました。

今までは、スポーツや文化を取り上げようと思ってできませんでした。矢板にはスポーツをする、すばらしい人が大勢いると思います。サッカーの町、矢板を少しでも宣伝をしたいと思っています。

文化の面では、おらが村には、伝統のあるこんな祭がありますよ等、お知らせいただければありがたいです。

かわら版記者が少数なので情報が限られます。ぜひ、皆様の情報をお願いします。連絡は、秘書広報課までよろしくね。

熊田 玲子

新しく衣替えしたかわら版になって、どんな矢板を皆さんに届けていきたいか考えてみました。

- コツコツと地味でも努力を続けて頑張っている人（運動系、文化系、清掃やボランティアなど）
- ぜひ紹介したい（こんなことをがんばっています）行事や催し物、お店や企業、グループなど
- あまり知られていないけれど、こんなよい場所や歴史的な場所
その他にもいろいろあると思います。今回自分がひどい痛みで歩行困難になったことで、普通に歩けることのありがたさを痛感しました。

ですから、病気などを克服して「今」を手に行っている人、障がいがあっても負けないでいる人、高齢者の方で不自由を抱えながらも生活している人などにお話を聞けたらと思います。そして、それを発信することにより、勇気づけられる人が一人でもいたら嬉しいです。

とにかく皆さんが喜んでくださったり、興味を持っていただけるような紙面にできたらと思っています。

星野 邦子

市民力かわら版が最終号を発刊し、これから少し時間がとれるので絵がみ教室や俳句教室に顔を出してみようと思っていた矢先、新市長さんからかわら版を続けてほしいとのお話を聞き、今までの記者の方々も全員賛成の意向なので、私も元気で車が運転できる内は続けてやってみようと思いました。

続けていくには、あと五人くらい新しく記者になってくれる人がほしいですね。矢板市民の皆さん、一緒にやいた応援かわら版を作りましょう。新かわら版記者希望者を受付中です。

やいた応援かわら版というネーミングに決まったので、趣味や習い事、スポーツ、文化的に頑張っている方々を応援し、紹介していきたいと思っています。また、とりあげてほしい方や題材などがありましたら、ぜひ、かわら版記者、または秘書広報課までご一報ください。できるだけ多くの方々を記事にしたいと思っています。

渡辺 美恵子

この度、リニューアルかわら版が再刊の運びとなりました。嬉しい限りですと言いたいところですが、不安で頭がいっぱいです。携わった市民力かわら版から頭の切り替えができませんでした。それでもなんとか自分の持ち味を自分らしく伝えることができたならうれしいですね。毎回の話し合いはドキドキワクワクいろいろな意見が飛び交います。結構いいものですよ。

私自身が矢板市を知るうえで地域密着型で発掘・発見できたらと思っています。市民の目で足・手・声となり地道にやってこられた企業、個人、グループ等情報発信の担い手として、ほんの少しでも役立ちたいですね。和と輪のつながりを大切にしたいのです。オンリー・ワンを目指している皆様情報をお寄せください。ダンボの耳でお待ちしています。

白石 哲夫

矢板市では、かつてベートーヴェンの第九コンサートを三回開催している。十二月の風物詩とも呼ばれ、全国各地で百回以上も開催される中で、最も人口の少ない自治体での開催であった。その第二回目のコンサートの指揮者は、フランス人のパスカル・ペロ氏で、彼はコンサート終了後の懇親会にも参加してくれた。そこでこんな挨拶をされた。「この矢板は私が育ったフランスの街に良く似ている。今日はまるでふるさとに帰ったようだ。」それから二十年以上も経って、突然この言葉が思い出された。そうだ、矢板の子どもたちにとりこの矢板の素晴らしさを教え、心の中に刻み付けてやろうではないか。そうすれば、自然とふるさとに足が向いてくるはずである。そのための情報発信、そんなかわら版を目指したい。

毎週水曜日18時から記者が集まって、わいわいがやがや情報交換や編集テーマなどの打ち合わせをしています。気軽に様子を見に来てください。

【お問い合わせ先】
秘書広報課 ☎ (43) 3764